

文化人類学特殊研究

担当者：武藤 康弘（文学部・准教授）

開講時期：後期

週時間：金曜 7・8 時限

履修者数：66名

授業概要・目的

この授業は、現在奈良県内各地で行われているさまざまな伝統的な祭礼や儀礼、そして行事について、地域の特性と歴史的な展開過程さらに宗教学的な意味を理解することを目指しています。なかでも、生業を切り口として、奈良の主要な産業である稲作や麦作、山間地における林業に関わる祭礼行事について焦点をあて、稲の生育と豊穡を祈願する御田植祭や山の安全を祈願する山の神祭、そして生業に関わる地域の寺社の正月の除災行事などを、宗教民俗学的に解説し、動画を駆使しながら解説していきます。さらに、教室だけにとどまらず、可能な限り祭礼行事の行われる現地まで足をはこび、学生たちが実地調査することにも重点をおいています。

スケジュール

日程	内容
10月上旬	大和の秋祭りの諸様相・翁舞
10月下旬	秋祭りの民俗芸能 神事芸能 題目立
11月上旬	秋祭りの民俗芸能 田楽踊
11月下旬	収穫祭と亥の子祭
12月上旬	春日若宮おん祭のすべて
12月下旬	修正会・修二会・年初の行事・山の神祭
1月	御田植祭の諸様相
2月	東大寺二月堂修二会（お水取り）
3月	東大寺二月堂修二会（お水取り）実地見学

取組内容・成果

この授業は、教室での講義が中心となるものの、実際に祭礼や行事の現場に出かけて行って、学生が直接調査体験することを最大の特徴としています。本年度後期に実際に学生を引率して調査した祭礼行事は以下のようになります。

10月6日	水越神社秋祭り神事芸能（県指定無形文化財）（奈良市邑地町）	5名参加
10月8日	倭文神社蛇祭（奈良市西九条町）	6名参加
	奈良豆比古神社翁舞（国指定無形文化財）（奈良市奈良阪町）	12名参加
10月9日	八柱神社題目立（国指定無形文化財）（奈良市上深川町）	6名参加
12月1日	山村の民俗調査とトチモチ搦き（吉野郡川上村北和田・上谷地区）	6名参加
12月2日	高田の暴れ亥の子祭（県指定無形文化財）（桜井市高田町）	7名参加
	談山神社 百味の御食（桜井市多武峰町）	7名参加
12月14日	春日若宮おん祭 装束出しと献菓子作り（国指定無形文化財）	13名参加
12月15日	春日若宮おん祭 大宿所祭（国指定無形文化財）	多数参加
12月16日	春日若宮おん祭 宵宮祭（国指定無形文化財）	多数参加
12月17日	春日若宮おん祭（国指定無形文化財）	多数参加
2月3日	手向山八幡宮御田植祭（奈良市雑司町）	9名参加
2月11日	六県神社子出来オンダ祭（川西町保田）	3名参加
2月14日	長谷寺だだおし（桜井市初瀬）	

3月、6日 調田坐一言尼古神社御田植祭（葛城市） 15日 春日大社御田植神事
1日から15日 東大寺二月堂修二会（お水取り）の現地調査

学生たちは、奈良という歴史民俗研究の聖地ともいえる場所で、国指定の重要無形民俗文化財や県指定の無形文化財を直接体験できる恵まれた教育環境にあるといえます。学生へのアンケート調査でも、本授業は奈良の伝統文化を理解する上で、さまざまな面で役にたったと評価されており、また、自ら春日若宮おん祭へ直接参加するなど、奈良の地域研究に向けて学生たちの研究意欲を喚起するための役割を果たしているものと評価されます。



高田の暴れ亥の子祭（桜井市）

本来男児のみ参加する収穫祭の一種で、仮屋、膳、灯明消しという3段階の子供の大暴れが特徴となる祭です。5年ほど前から、少子の中で祭礼組織の維持するために、居住する近隣住民に広く開放して、一部行事には女兒の参加も黙認されるようになってきています。写真は、灯明消しの暴れで、祭礼催行者の了承を得て、学生たちも参加させていただきました。



談山神社の西大門跡にて（桜井市）

談山神社は明日香村の後背地に位置し、万葉集にも歌われた景勝の地です。室町時代から伝わる秋の祭礼嘉吉祭には百味の御食とよばれる特殊神饌が供えられています。現地調査では、西大門跡においては中世から続く山岳寺院の様子が、神社内の堂宇からは神仏習合の建築様式の様子が、さらに、写真右の「女人禁制」の石碑からは、近世以前の女性と信仰の関係が学生たちにも体感されたと思われます。

今後に向けて

奈良の伝統的な祭礼は、大変古い歴史と宗教学的な意味、そして、生業に裏打ちされた複雑な様式をもっています。しかし、近年の少子高齢化によって、祭礼組織の維持と伝承は困難になってきています。

この授業では、教室の授業では歴史民俗学的な重要性や、宗教学的な意義について解説するほかに、コンピューター上の動画を駆使して、学生たちが授業のなかで、ヴァーチャルに祭礼を体感できるような工夫をしています。しかし、文化人類学や民俗学の分野で最も重要なことは、現地に足を運んで調査することです。この授業でも、奈良市内等の近隣の行事の場合は、大勢の学生を引率できますが、山間地の行事では、自家用車の定員内の学生しか連れていくことができません。なんとか、一人でも多くの学生が現地調査に参加できるように、方策を練っています。